

臨床基本技術トレーニングセンター

事業概要

趣 旨

成人・小児・産婦の急変時対応や救急蘇生ができる地域医療人ならびにインストラクター資格を持ち基幹病院にてコースを開設できる人材を養成することを目的とした人材育成事業である。対象は、兵庫県の地域医療を担う研修医・若手医師・コメディカル・学生およびシミュレーション教育のできる指導医・コメディカルである。

目 的

地域の医療機関や医療施設・医療関連施設の職員を対象に、地域住民が安心して医療をゆだねるために必要な、急変時や蘇生が必要な状態になったときに的確な状況判断と処置が出来る能力を養うシミュレーション教育を行うことを目的とする。また、同時に地域医療の中核となる病院でシミュレーション・コースを主催できる人材を育成することを事業の目的とする。

概 要

本事業は、上記を目的として

- 1) 地域医療人材を対象とした成人 BLS/ICLS/ACLS コースの実施
 - 2) 地域医療機関の研修医を対象とした JMECC（日本内科学会認定内科救急・ICLS 講習会）講習会の実施
 - 3) 地域医療人材を対象とした小児 PEARS/PALS プロバイダーコースの実施
 - 4) 地域医療人材を対象とした外傷診療に必要な知識と救急処置を学ぶ JATEC コースの実施
 - 5) 地域医療人材を対象とした産科的急変対応を学ぶコースの実施
 - 6) 地域医療人材を対象とした超音波シミュレーション講習会の実施
 - 7) 地域医療人材を対象とした侵襲的臨床基本手技ブラッシュアップ講習会の実施
- などシミュレーション教育を用いた、臨床基本技術のトレーニングコースを開設する

● 救命措置 ● BLS 講習会

BLS: basic life support

実施概要

急病者に対してその場に居合わせた人が、救急隊や医師に引継ぐまでの間に行う一次救命処置にかかる講習会を地域医療に携わる医師、メディカルスタッフを対象に開催した。

受講者が迅速な初期救命処置を修得することにより、院内発生心肺停止の救命率の向上をはかるとともに、院外においてもバイスタンダー CPR 実施者（救急現場に居合わせた人による心肺蘇生）として社会に貢献することを目的とする。

実施日

平成29年4月5日、4月6日

参加者

のべ254名

開催内容

- ・ BLS で必要とされる技能等に関する講義
- ・ 少人数のグループに分かれそれぞれのグループにインストラクター等がついて実施する、蘇生人形及び除細動器・バッグバルブマスクを活用した実技演習
- ・ 修了証の交付



● 救命措置 ● ICLS 講習会

ICLS : Immediate Cardiac Life Support

実施概要

「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得する医療従事者のための講習会を地域医療に携わる医師、メディカルスタッフを対象に開催した。実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけることを目標とする。

実施日

平成29年5月14日、8月12日、12月9日

参加者

のべ124名（指導者等含む）

開催内容

- ・ ICLS で必要とされる技能等に関する講義
- ・ 少人数のグループに分かれそれぞれのグループにインストラクター等がついて実施する、蘇生人形及び除細動器、挿管人形、バッグバルブマスクを活用した実技演習
- ・ 修了証の交付



● 救命措置 ● ICLS 指導者講習会

実施概要

ICLS 講習会の指導者を養成するための講習会を地域医療に携わる医師、メディカルスタッフを対象に開催した。受講者がICLSコースにおけるインストラクターの資格取得を目的とする。

実施日

平成29年2月11日

参加者

のべ27名（指導者等含む）

開催内容

- ・ ICLS 指導者として必要とされる技能及び知識等に関する講義
- ・ 少人数のグループに分かれそれぞれのグループにインストラクター等がついて実施する、蘇生人形及び除細動器、挿管人形、バッグバルブマスクを活用した実技演習
- ・ 修了証の交付

● 救命措置 ● ISLS 講習会

ISLS : Immediate Stroke Life Support (神経救急蘇生)

実施概要

ER での神経救急蘇生に関わる可能性のある救急隊員（救急救命士を含む）や医師、看護師を対象に神経蘇生の診療プロセスを円滑に進めるための神経蘇生の標準的な診察または観察の学習を支援することを目的に開催した。

実施日

平成29年7月9日、平成30年1月14日

参加者

のべ66名（指導者等含む）

開催内容

ER での脳卒中診療に関わる可能性のある医療従事者を対象に脳卒中急性期の診療プロセスを円滑かつ可能な限り短時間で進めることを目標とする。

- ・ ISLS で必要とされる技能等に関する講義
- ・ 少人数のグループに分かれそれぞれのグループにファシリテーター等がついて実施する、蘇生人形及び除細動器、挿管人形、バグバルブマスクを活用した実技演習
- ・ 修了証の交付

● 救命措置 ● ISLS-WWS

ISLS-WWS : Immediate Stroke Life Support-Workshop

実施概要

ISLS 講習会の指導者を養成するための講習会を ER での神経救急蘇生にかかわっている医師、看護師、救急隊員（救急救命士を含む）を対象に開催した。受講者が ISLS コースにおけるインストラクターの資格取得を目的とする。

実施日

平成30年1月14日（ISLS と同日）

参加者

のべ16名（指導者等含む）

開催内容

- ・ 脳卒中急性期の診療プロセスを指導できることを目標とする
- ・ インストラクターの資格を取得するための講習会
- ・ ISLS で必要とされる技能等に関する講義
- ・ 少人数のグループに分かれそれぞれのグループにファシリテーター等がついて実施する、蘇生人形及び除細動器、挿管人形、バグバルブマスクを活用した実技演習
- ・ 修了証の交付

● 救命措置 ● 人工呼吸器研修

実施概要

医療現場で一般的に使用されている人工呼吸器を用いて、主に初心者の技術の習得を目指した医療従事者を対象に開催した。

実施日

平成29年4月7日、6月9日、9月8日、12月8日

参加者

のべ19名

開催内容

- ・講師によるスライドを用いた講義
- ・講師によるシミュレーターを用いた手技実演
- ・受講生によるシミュレーターを用いた実習（インストラクター指導下で、シミュレーターを用いた実習を行う）
- ・小テスト、解説、質疑応答



● 救急外来対応 ● JMECC 講習会

JMECC (Japanese Medical Emergent Care Course)

実施概要

内科専門医取得に必要な救急外来対応能力を獲得するための講習会を地域医療に携わる医師を対象に開催した。救急医療に接することの少ない内科医が、心停止時のみならず心停止に至る可能性の高い緊急を要する急病患者に対応できることを目標とする。

実施日

平成29年6月25日、9月3日、平成30年3月4日

参加者

のべ66名（指導者等含む）

開催内容

- ・心停止患者等への救急外来対応に関する講義
- ・少人数のグループに分かれそれぞれのグループにインストラクター等がついて実施する、蘇生人形及び除動器、挿管人形、バッグバルブマスクを活用した実技演習
- ・修了証の交付



● 救急外来対応 ● JMECC 指導者講習会

実施概要

県内の救急医療体制の充実を図るため、心停止時のみならず、緊急を要する内科急病患者に対応できることを目的としたJMECC（日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会）を多くの病院で開催するため、指導にあたるインストラクターを養成するための講習会を開催した。

実施日

平成29年6月25日、9月3日、平成30年3月4日

参加者

のべ36名（指導者等含む）

開催内容

- ・JMECCで必要とされる技能、成人教育手法に関する講義
- ・少人数のグループに分かれシミュレーション形式で行うBLS、ICLS、内科救急疾患への初期対応それぞれの指導方法に関する実技演習
- ・修了証の交付

● 外傷診療 ● MCLS 標準コース

MCLS : Mass Casualty Life Support

実施概要

災害のファーストリスポンダーとなりうる要員を対象とした災害医療の研修会として開発された「MCLS 標準コース（多数傷病者への医療対応標準化トレーニングコース）」を、医師、看護師、病院事務官などを対象に開催した。コースはDMAT 隊員が学んでいる内容を多く取り入れ、その理論や用語の普及と共通化を目指している。災害現場医療での医療従事者に、災害時の多数傷病者への医療対応、トレーニングの機会を提供することで、消防・警察等とDMATとが、災害現場において連携可能となる。

実施日

平成29年11月12日

参加者

のべ59名（講師等含む）

開催内容

- ・講義
- ・机上シミュレーション
- ・実技訓練
- ・試験

● 外傷診療 ● 兵庫県災害医療ロジスティックス研修

実施概要

組織の枠を超えた災害医療ロジスティックスの為の大規模研修会を地域医療に携わる医師、メディカルスタッフを対象に開催した。大災害発生時には様々な組織から医療支援チームが被災地入りするため、被災地内において医療支援活動を行うためのロジスティックス能力の充実を図る。

実施日

平成30年3月18日

参加者

のべ67名（講師等含む）

開催内容

以下のロジスティック能力を獲得する

- 1) ロジスティックスの基礎の習得
 - ・派遣目的地までの円滑な到達
 - ・衣食住の確保
- 2) 各拠点での本部立ち上げと本部内におけるロジスティックスの役割を理解する。
 - ・各拠点でのカウンターパートとのコミュニケーション
 - ・情報伝達手段の構築および通信訓練
 - ・情報の集約と活用
- 3) 他組織間の連携について理解する
 - ・各組織特有の手法などについて理解する
 - ・他組織間の協働方法の検討



● 新生児蘇生 ● 新生児蘇生法（専門コース）講習会

NCPR: neonatal cardiopulmonary resuscitation (新生児心肺蘇生法)

実施概要

出生直後の新生児に対する心肺蘇生法に関する講習会を一次周産期医療機関の医師、新生児蘇生に携わる看護師・助産師、産科・小児科臨床研修医、救命救急士などを対象に開催した。

実施日

平成29年5月21日、8月20日、10月9日、平成30年2月12日

参加者

のべ93名（インストラクター等含む）

開催内容

- ・臨床技能の基礎知識等に関する講義
- ・少人数のグループに分かれそれぞれのグループにファシリテーター等がついて実施する、シミュレーター機器を活用した気道確保実技演習
- ・試験
- ・認定書の交付



● 産科急変・蘇生 ● 救急隊員のための周産期病院前救護産科コース

実施概要

救急隊員が母体安全のためにとるべき行動や他職種連携を学ぶコース。特に分娩期に特化し、分娩切迫度判断や分娩介助、産後出血など、救急隊員がのぞましい行動を考える機会となることを目指し開催した。

実施日

平成29年5月21日、8月20日、10月9日、平成30年2月12日

参加者

のべ60名（指導者等含む）

開催内容

産後出血、妊婦の痙攣といった産科急変時において、効果的かつ効率的に産科急変を管理するために必要なコミュニケーションとチームワークスキルを学ぶシミュレーショントレーニング



● 産科急変・蘇生 ● ALSO

ALSO (Advanced Life Support in Obstetrics)

実施概要

周産期救急に効果的に対処できるような知識や能力を身につけるための教育プログラムを開催した。

ふだん出会うことの多い産後出血への対応、肩甲難産の肩甲娩出や吸引分娩を安全に行うための手技の獲得、CTGの評価などについて学ぶ。

実施日

平成30年3月17日、18日

参加者

のべ112名（指導者等含む）

開催内容

- ・臨床技能の基礎知識等に関する講義
- ・少人数のグループに分かれそれぞれのグループにファシリテーター等がついて実施する、シミュレーター機器を活用した実技演習
- ・修了証の交付



● 産科急変対応 ● PC³

PC³（ピーシーキューブ）：Perinatal Critical Care Course

実施概要

妊産婦急変に必要なスキルとシナリオを通して、妊産婦の救命を目指した治療戦略を学習することを目的とした講習会を開催した。心肺蘇生を熟知した救急医が不在の下でも、適切な初期対応と救急処置が実施されれば母体と胎児の2つの命を同時に救うことも不可能ではない。「周産期初期診療アルゴリズム」を提唱し、誰もが周産期救急における標準的な初期対応と蘇生ができるコース構成としている。

実施日

平成29年6月11日

参加者

のべ62名（指導者等含む）

開催内容

- ・臨床技能の基礎知識等に関する講義
周産期急変時初期診療の流れ（Primary survey & Secondary survey）
- ・少人数のグループに分かれそれぞれのグループにファシリテーター等がついて実施する、シミュレーター機器を活用した実習演習
- ・デモンストレーション
- ・タスクトレーニング（スキルブース）
- ・シミュレーショントレーニング（シナリオブース）
- ・修了証の交付



● 画像診断 ● 超音波診断支援コース

実施概要

心エコー・腹部エコーの超音波検査を若手医師に系統的に身につけてもらうことを目的とした「兵庫県地域医師超音波ハンズオン・セミナー 2017」を、兵庫県養成医師および地域医療に携わる若手医師を対象に開催した。コースは3日間を1コースとし、心エコーおよび腹部エコーの2コースをそれぞれの分野でエコー検査に携わる医師、上級技師によるレクチャーおよびハンズオンを実施した。

実施日

平成29年9月10日、9月18日、10月7日

参加者

のべ93名（インストラクター等含む）

開催内容

- ・講師によるスライドを用いた講義
- ・講師による超音波エコー手技の実演
- ・受講生による超音波エコーハンズオン実習（講師指導下で、超音波エコーを使用し実習を行う。）
- ・質疑応答、総括



● 中心静脈カテーテル ● CVC 挿入コース CVC (central venous catheterization)

実施概要

エコーガイド下での安全な中心静脈カテーテル挿入（セルジンガー法）の手順を確認し、その手技を習得するコースを地域医療機関の若手医師を対象に開催した。医療安全上、エコーガイド下で CV カテーテルを挿入することの重要性を啓発することを目的とする。

実施日

平成 29 年 4 月 27 日、6 月 22 日、9 月 14 日、10 月 12 日、平成 30 年 1 月 11 日、2 月 8 日

参加者

のべ 90 名（インストラクター等含む）

開催内容

- ・講師によるスライドを用いた講義
- ・講師による CV カテーテル挿入の手技実演
- ・受講生による CV カテーテル挿入実習（インストラクター指導下で、超音波機材を使用し穿刺実習を行う）
- ・小テスト、解説、質疑応答



● 中心静脈カテーテル ● 侵襲的手技ブラッシュアップセミナー

実施概要

地域の現場において、特に侵襲的な手技が必要とされるものの所属施設によってその頻度は様々である。専門医の指導のもと、シミュレーターを用いて手技を確認し、知識と技術の維持・向上を目的とした「地域医師のための侵襲的手技ブラッシュアップセミナー」を、地域医療機関の若手医師を対象に開催した。

実施日

平成 30 年 1 月 27 日

参加者

のべ 14 名（インストラクター等含む）

開催内容

- ・胸腔ドレナージチューブ挿入
- ・骨髄穿刺・生検
- ・腰椎穿刺
- ・中心静脈カテーテル挿入



● その他全般 ● 大リーガー医プロジェクト

実施概要

米国・日本国内から優秀な Clinician educator を招き、学生、研修医、指導医、看護師などを対象に、教育・指導、講演会などを実施した。医療のみならず医学教育の方法も学ぶことを目的としている。

※大リーガー医とは、米国の秀でた臨床医・教育者（clinician-educator）を、その高い臨床力や確固たる倫理観などから、北米で活躍する身体能力の高いプロ野球選手になぞらえ「大リーガー医」と呼んでいる。

実施日

平成29年9月7日、9月20日～9月22日、10月16日

参加者

のべ221名

開催内容

外科、特に心臓血管外科学領域について造詣が深い豊田吉哉先生、内科全般、特に感染症について造詣が深い Lawrence M. Tierney, Jr 先生、内科全般、特に腫瘍血液領域について造詣が深い中島光先生による講演会、セミナーを開催した。Tierney 先生のセミナーは、ケースカンファレンスを1日行い、その他の時間には各診療科による協力の下、病棟回診や個別指導を行った。



● その他全般 ● なでしこ女性医師養成コース

実施概要

総合診療内科医を目指す女性医師を支援することを目的としたセミナーを、女性医師を対象に開催した。

実施日

平成29年7月30日、平成30年1月27日

参加者

のべ40名

開催内容

第1回「ワークライフバランス～時間活用の仕方～」では、木戸正浩先生（神戸大学医学部附属病院肝胆膵外科特命教授）による講演の後、5名の医師によるパネルディスカッションを行った。ワークライフバランスの現状や取り組み方法、社会的リソースや医師としてのプロフェッショナリズムについて話が交わされた。第2回「女性医師×地域医療＝もっと楽しい！－岡山大学の取り組みより－」では、片岡仁美先生（岡山大学地域医療人材養成講座教授）の講演の後、ワールドカフェ形式のグループワークを行った。



● その他全般 ● 上部消化管内視鏡シミュレータ講習会

実施概要

上部消化管内視鏡検査について、シミュレーターを使って消化器内視鏡の初歩から学ぶ講習会を地域医療機関の若手医師を対象に開催した。

実施日

平成29年12月2日

参加者

のべ10名（インストラクター等含む）

開催内容

- ・ 講義
- ・ シミュレーターを使った実技演習



● その他全般 ● 地域医療の現場で役立つ嚥下・口腔ケアセミナー

実施概要

耳鼻咽喉・頭頸部外科と歯科口腔外科との協同によって、地域の現場で役立つ嚥下・口腔ケアについて兵庫県内の医師、研修医、メディカルスタッフおよび未来医療研究人材養成拠点形成事業に関わる連携大学の医師等を対象としたセミナーを開催した。

実施日

平成29年10月15日

参加者

のべ37名（講師等含む）

開催内容

医師、看護師、薬剤師、理学療法士など患者に接するすべての医療従事者が、嚥下障害や口腔疾患を知ることによって、日常的な医療現場で必要となる嚥下リハビリや口腔ケアの現状を講義と実習を通して学び、医療のあり方等を検討することができた。嚥下食を実際に試食し、味覚や食べやすさを体験した。

